

提出済み要望書 2015 年度 ㊟望まない妊娠や性感染症を防ぐため、義務教育における性の健康教育の実  
施を(国際・開発委員会提案) 2016 年 2 月 15 日  
内閣総理大臣安倍晋三様、文部科学大臣馳浩様

国際婦人年連絡会 世話人 山口みつ子  
實生 律子  
紙谷 雅子

## 望まない妊娠や性感染症を防ぐため、義務教育における性の健康教育の実施を求めます

19 歳以下の母親から生まれる子どもの数はここ数年増加傾向にあり、2014 年には概数で 13,010 人が誕生しています(厚労省人口動態統計月報年計<概数>の概況平成 26 年)。高校進学率が男女とも 96%を越える現在(平成 26 年)、高校生、ましてや中学生には子育てと学業の両立は不可能に近く、退学による学業の中断や、社会的・精神的な未熟さからパートナーと別れるなど、大きな痛手を被ります。

また、子どもへの虐待も多く、0 日・0 カ月児死亡例では加害者の最多が 19 歳以下の実母である(厚労省第 10 次報告の概要)他、母の周産期死亡率では 19 歳以下が 40 歳以上について高くなっています(内閣府男女共同参画白書平成 25 年版)。このように 19 歳以下の出産は母の死亡率が高いのみならず、出産時に母子共に健康であっても、子育ての環境が整わないため子どもの虐待に繋がる場合が多いのです。

さらに、子育て環境の不整備から、19 歳以下の妊娠では 71.5%が人工中絶を選び、特に 15 歳以下では中絶率が 85%にもなります(厚労省人口動態統計平成 26 年、厚労省平成 25 年度衛生行政報告例の概況)。知識不足から妊娠が進んでからの中絶も多く、子宮損傷・穿孔・感染などを起こし、身体に大きな負担をかけていると言われます。

また、性感染症の問題も深刻です。性感染症は感染者に健康障害を起こし、男女共に不妊の原因になります。症例の多い性器クラミジアは感染率・再発率が高く、本人の治療終了後も、パートナーから再び感染するピンポン感染を引き起こします。尖圭コンジローマと共に 10 代の感染者のうち女性が占める割合が約 75%と高率で、対策が急がれます(厚労省性感染症報告数 26 年度)。さらに梅毒の患者も増加しており、2013~2014 年では 10~20 代の女性患者の増加が顕著です(感染症発生動向調査 2015 年 1 月)。

このように、すべての人が命を大切に、生涯にわたり健康を保つには、性感染症や若すぎる妊娠・出産を防ぐような教育の実施が必要です。それには体の仕組み、卵子・精子の特性、月経開始後は妊娠できることなどを教えるだけでなく、性は人権であるという意識を育成し、いつ望んで子どもを持つかを含む将来のキャリア形成を考えさせ、責任を持って子育てができない時期には性交を断る勇気や自制心、コミュニケーション能力を培うといった、理科・保健体育・家庭科・社会科・国語など多くの教科が係わる全人的教育が必要であり、それに伴う人材の育成も重要です。

自分の健康を守り、生まれてくる子どもが全て望まれて生まれる子どもであるよう、以下のことを要望します。

1 男女共に学べる全人的な性の健康教育を、小学校高学年から段階に応じ、義務教育として実施すること

1 大学の教職課程に性の健康教育、及び性は人権であるという人権教育を組み入れること